

## 1. 県民意識調査の実施趣旨

今後の新型コロナウイルス感染症対策のため、LINEを活用して令和5年12月11日（月）～17日（日）の間、新型コロナウイルス感染症の罹患後症状を含む感染症対策等に関して県民の意識・行動に係る調査（第7回）を実施した。

## 2. 調査方法

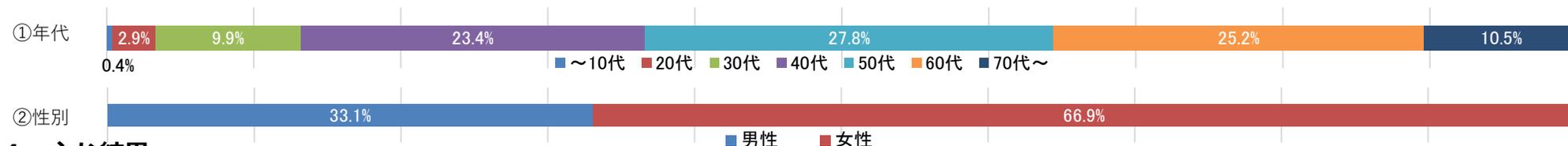
県公式LINEアカウントのフォロワー（約16万人）に対して調査を実施、うち有効回答数8,960人を集計

※直近の調査

第5回調査【令和3年10月1日（金）～3日（日）、有効回答数22,776人】、第6回調査【令和4年1月7日（金）～10日（月）、有効回答数27,790人】

第7回調査【令和5年12月11日（月）～17日（日）、有効回答数 8,960人】

## 3. アンケート調査回答者の属性



## 4. 主な結果

### (1) 基本的な感染対策等に係る意識調査

- 常時マスクの着用の実施割合は、78%（第6回）→ 54%（第7回）で、コロナ禍前と同様に旅行すると回答した割合は、2%（第6回）→ 35%（第7回）となった。
- 感染に対する意識として、自身が感染する可能性が中等度以上あると回答した割合は、65%（第5回）→ 73%（第7回）だった一方、自身の感染が周囲に及ぼす影響の割合は、92%（第5回）→ 75%（第7回）となった。

### (2) ワクチン接種

- ワクチン接種を2回以上行ったと回答した人の割合は96%となった。

### (3) 新型コロナウイルスへの感染

- コロナに罹患したと回答した人は3,284人（37%）となった。

### (4) こころの状態、ソーシャル・キャピタル

- 過去1か月間のこころの状態は、5点以上を示す割合が男性より女性で多い一方、ソーシャル・キャピタルが「低い」を示した割合は、男性で大きかった。

### (5) 罹患後症状

- コロナ罹患後、他の疾患と説明がつかず、コロナ感染から3ヶ月たったあとも、少なくとも2ヵ月以上の症状の発症は、「倦怠感（35%）」、「咳嗽（34%）」、「咽頭痛（31%）」が多かった。現在も持続している症状（「保有率」）は、発症率よりも減少したが、「倦怠感（4%）」、「咳嗽（5%）」、「喀痰排出（4%）」、「健忘（4%）」を認めた。1個以上の罹患後の症状の発症は1,844人（56.2%）であり、保有は594人（18.1%）だった。
- 初期に罹患後症状を認めた人も、経過とともに症状が消失する一方、一定の割合で、罹患後症状が残存していた。

### (6) 症状による医療機関の受診

- 罹患後の症状が継続している人のうち、医療機関を受診しなかったものが半数以上を占め、その理由として「どこに行けばいいかわからない」が37%だった。

### (7) 症状による就労や就学への影響

- 罹患した人で、何らかの影響があった（「就業時間など短縮した（6%）」、「休職や休学をした（12%）」、「仕事や学校をやめた（1%）」の合計）と回答した人の割合は19%となった。

## 1. 県民意識調査の実施趣旨

新型コロナウイルス感染症の罹患後の健康影響や社会的影響について実態を把握し、今後の医療や社会的アプローチの参考とするために、感染症対策等に関して県民の意識・行動に係る調査（第7回）を実施した。

## 2. 調査方法等

■**実施期間**：令和5年12月11日（月）～17日（日）

■**調査方法**：県公式LINEアカウントのフォロワー（約16万人）に対して調査を実施、うち**有効回答数8,960を集計**

※第1回調査【令和2年12月11日（金）～13日（日）、有効回答数26,164人】、第2回調査【令和3年2月5日（金）～7日（日）、有効回答数18,556人】

第3回調査【令和3年4月16日（金）～18日（日）、有効回答数30,165人】、第4回調査【令和3年7月2日（金）～4日（日）、有効回答数24,230人】

第5回調査【令和3年10月1日（金）～3日（日）、有効回答数22,776人】、第6回調査【令和4年1月7日（金）～10日（月）、有効回答数27,790人】

第7回調査【令和5年12月11日（月）～17日（日）、有効回答数 8,960人】

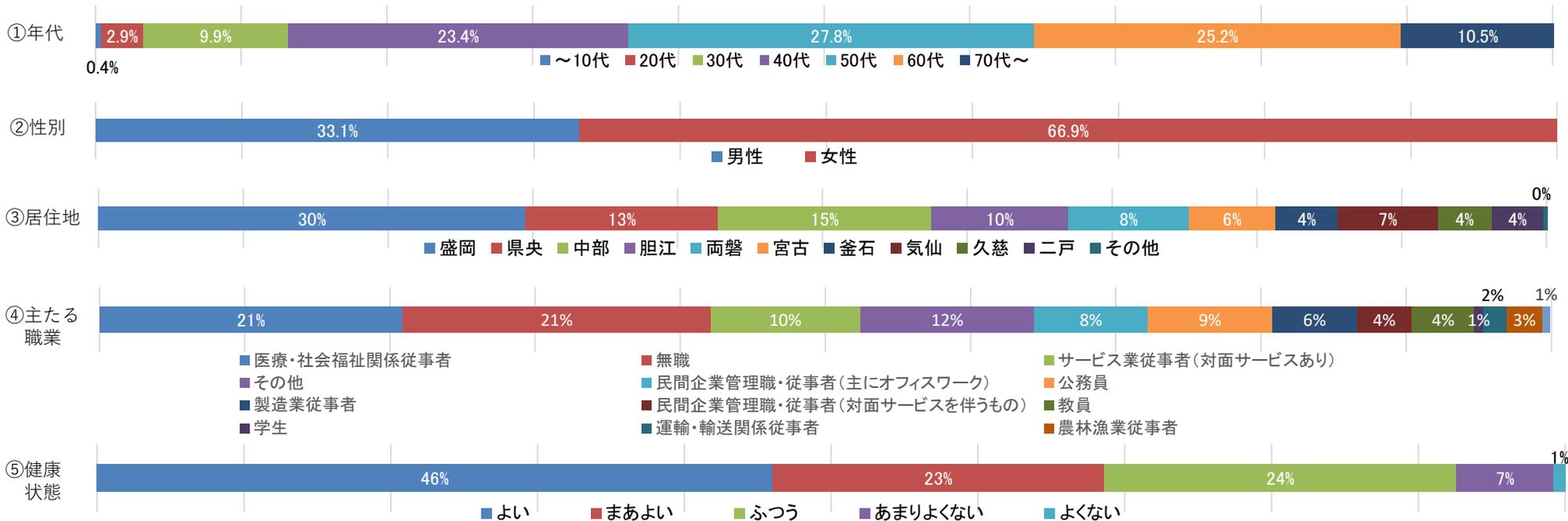
■**調査項目**：①基本情報（年代、性別、居住地、主たる職業、健康状態、世帯人数、同居者、情報媒体、社会経済的因子）

②基本的な感染対策に係る意識調査（マスクの着用、旅行の実施状況、罹患可能性や影響、ワクチンの意識や接種回数等）

③こころの状態、ソーシャル・キャピタル

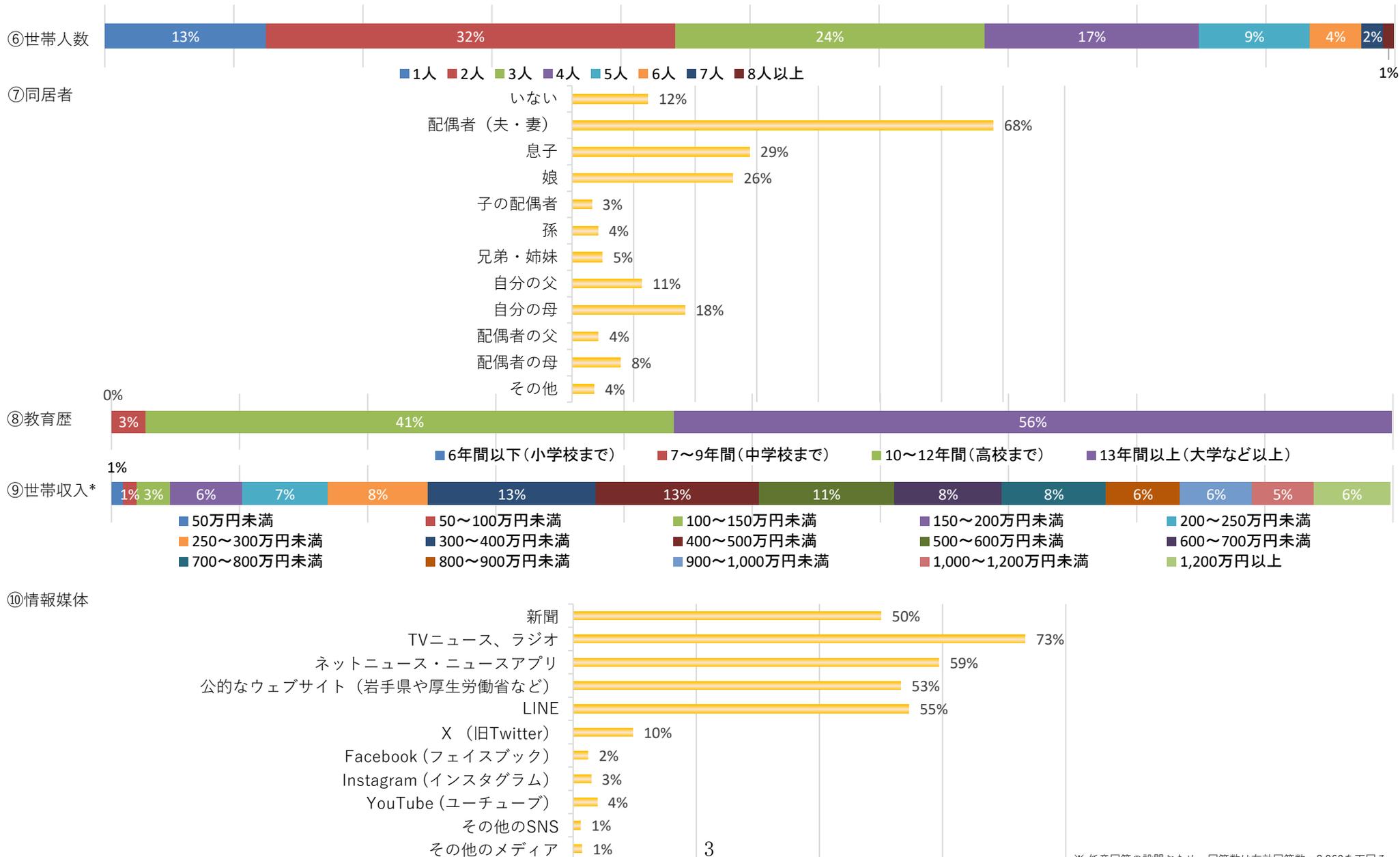
④後遺症に係る症状の発生状況や受診の有無、就労や就学への影響

## 3. アンケート調査回答者の属性（年代、性別、居住地、主たる職業、健康状態）



※ 本集計では、小数点以下第1位で四捨五入のため、合計が100にならない場合があること。

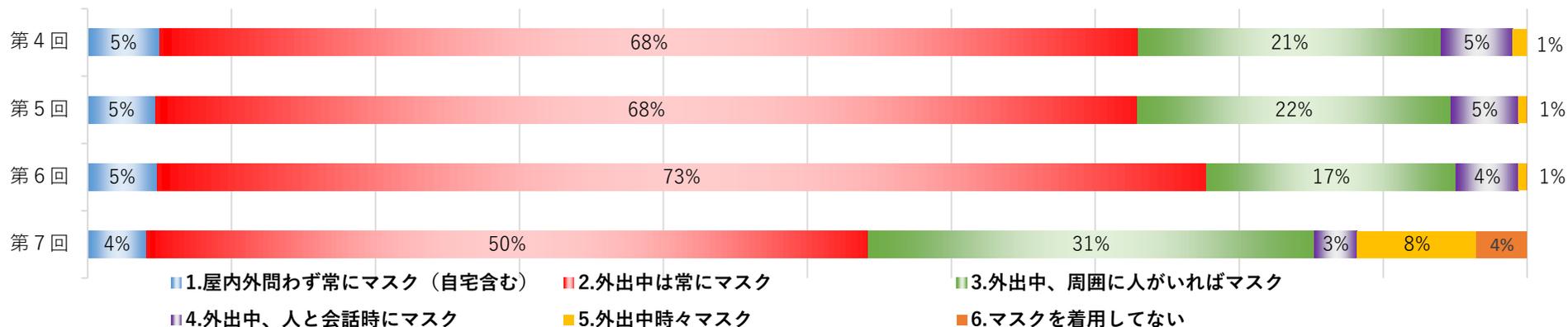
## 3. アンケート調査回答者の属性（同居者、情報媒体、社会経済的因子）



\* 任意回答の設問のため、回答数は有効回答数=8,960を下回る。

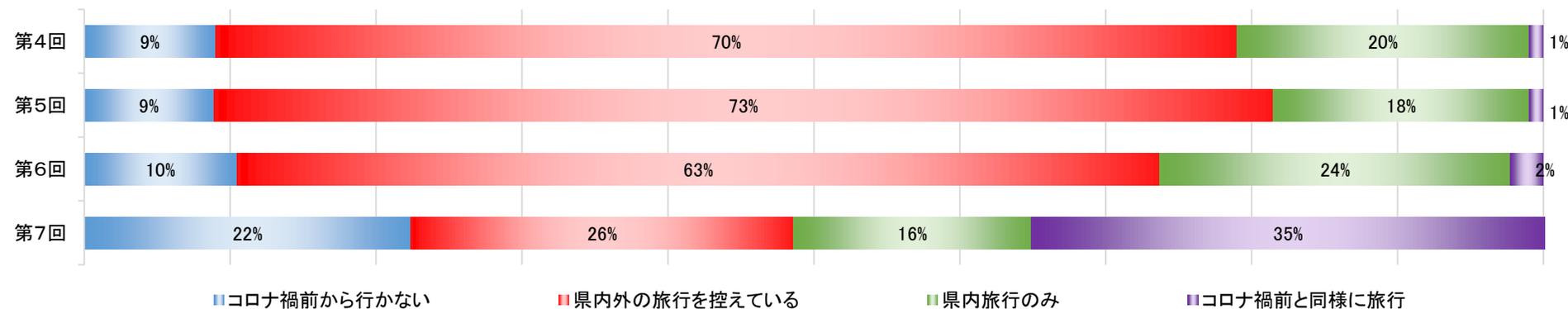
## 4. マスクについて

□ 常時マスクの着用（「1. 屋内外問わず常にマスク（自宅含む）」及び「2. 外出中は常にマスク」の計）の実施割合は、78%（第6回）→ 54%（第7回）だった。



## 5. 旅行の実施状況について

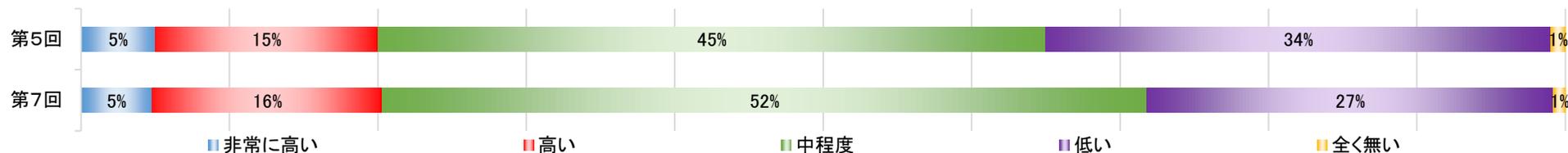
□ コロナ禍前と同様に旅行と回答した人の割合は、2%（第6回）→ 35%（第7回）だった。



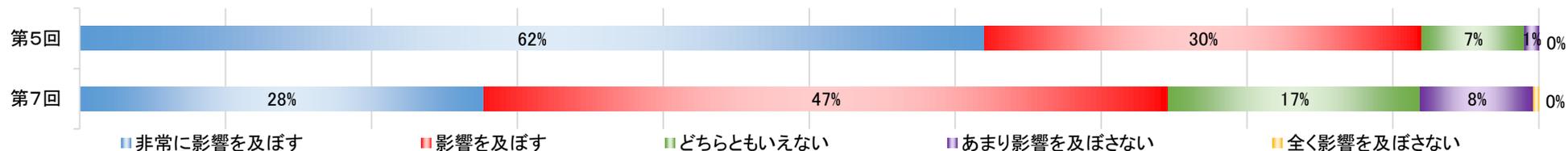
## 6. 新型コロナウイルスへの感染に対する意識について

- 自身が感染する可能性が中程度以上ある（「非常に高い」、「高い」、「中程度」の合計）と回答した人の割合は、65%（第5回）→ 73%（第7回）だった。
- 自身の感染が周囲に影響を及ぼす（「非常に影響を及ぼす」、「影響を及ぼす」の計）と回答した人の割合は、92%（第5回）→ 75%（第7回）だった。

### 自身が感染する可能性（単一回答）



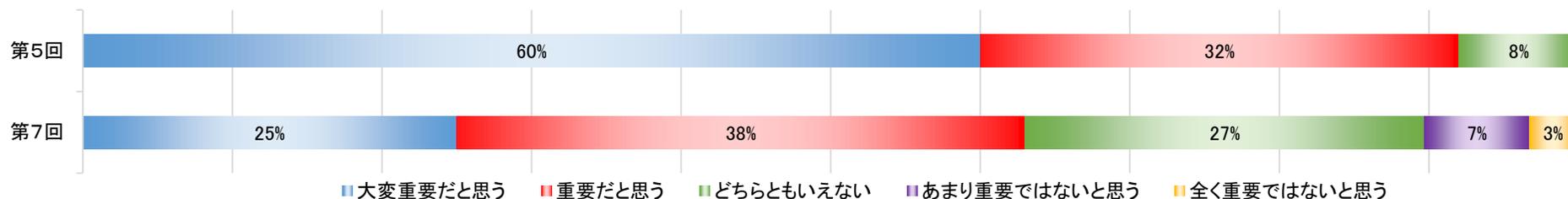
### 感染が周囲に与える影響（単一回答）



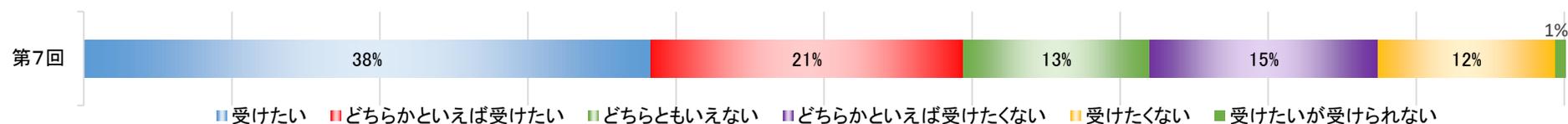
## 7. ワクチン接種について

- ワクチン接種が重要だと思う（「大変重要だと思う（25%）」、「重要だと思う（38%）」の合計）と回答した人の割合は**63%**と低下した。
- **ワクチン接種を希望する**（「受けない（38%）」、「どちらかといえば受けない（21%）」、「受けないが受けられない（1%）」の合計）と回答した人の割合は**60%**となった。**接種を希望しない**（「どちらかといえば受けない（15%）」、「受けない（12%）」の合計）と回答した割合は**27%**となった。
- ワクチン接種を2回以上行ったと回答した人の割合は**96%**となった。

### ワクチンの重要性



### ワクチンの接種希望



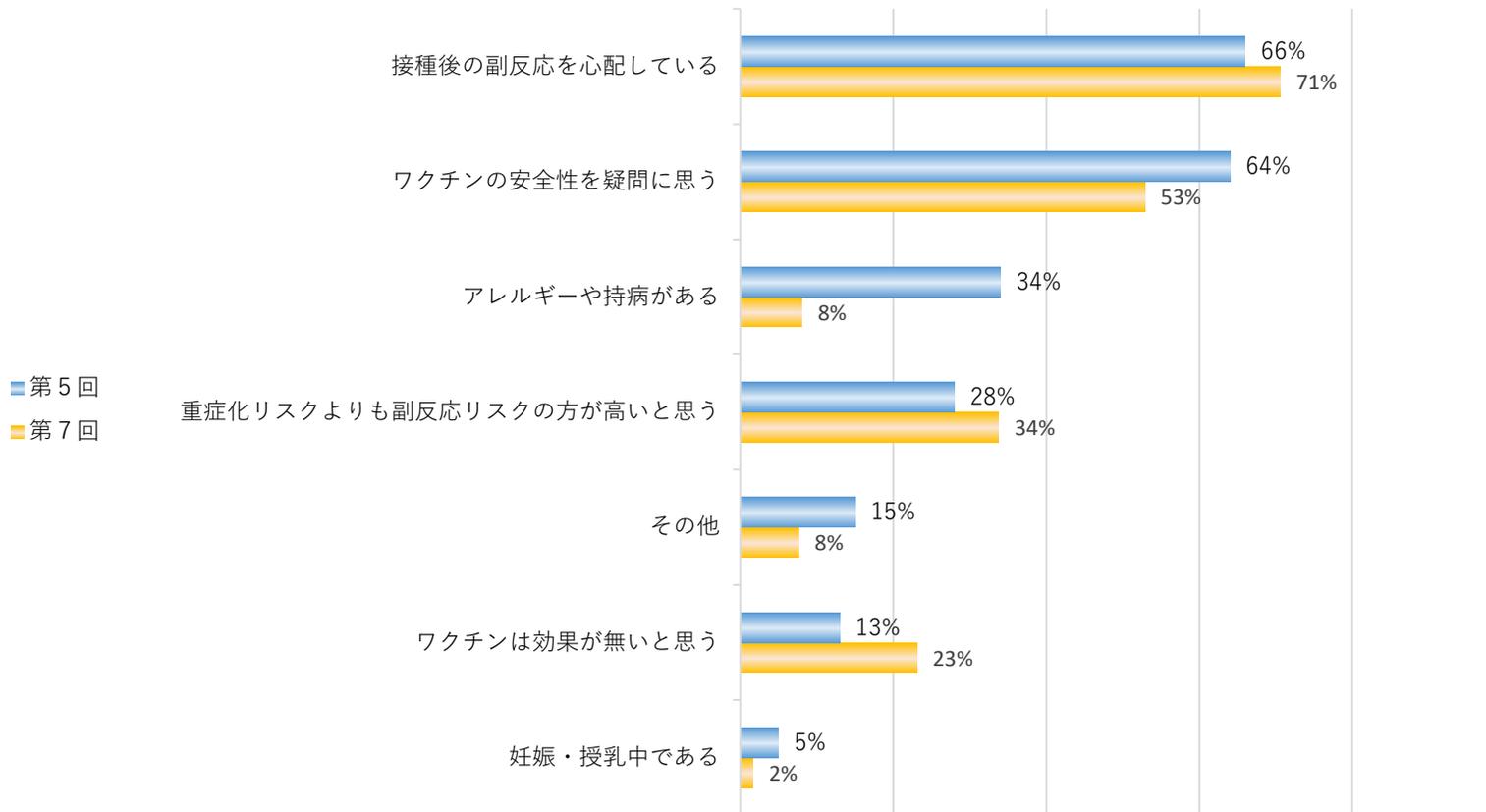
### ワクチン接種回数



## 7. ワクチン接種について

□ 接種を希望しない・接種できない理由として「接種後の副反応を心配している」、「重症化リスクよりも副反応リスクの方が高いと思う」、「ワクチン効果がないと思う」と回答した割合が増加した。

ワクチン接種を希望しない理由（複数回答）（回答数=1,115）

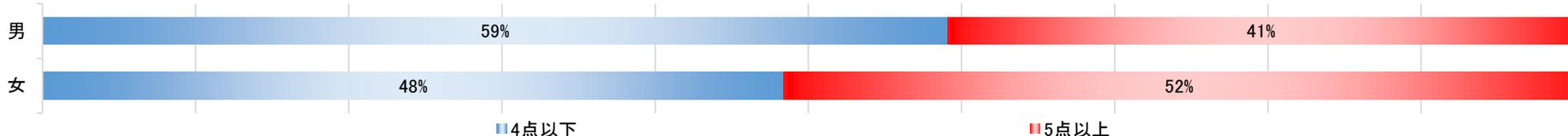


※ 前設問で「どちらかといえば受けたくない」「受けたくない」「受けたいが受けられない」と回答した人が回答

## 8. こころの健康度等について

- こころの健康度は、全体で5点以上の割合は47.6%で、男性より女性の割合が高かった。
- ソーシャル・キャピタルについて、ソーシャル・キャピタルが「低い」の割合が男性で高かった。

### こころの状態 ※



こころの状態には、K6という尺度を用いている。K6は米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」「気分が沈み込んで、何が起ころっても気が晴れないように感じましたか」「何をするのも骨折りだと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」の6つの質問について5段階（「全くない」（0点）、「少しだけ」（1点）、「いつも」（2点）、「ときどき」（3点）、「たいてい」（4点））で点数化する。**合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性**があるとされている。

（参考）

令和4年度 国民生活基礎調査では、5点以上は29.1%だった。

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）平成25年度検診結果の概要では、平成25年度 K6 によるこころの状態で5点以上の有所見者は、男性で22.7%、女性で31.6%だった。

### ソーシャル・キャピタル ※



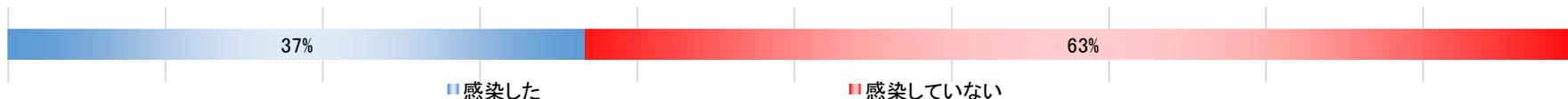
（参考）

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）東日本大震災後の健康調査（岩手県）平成23年度では、ソーシャル・キャピタルの「低い」割合は、仮設住宅居住者の男性で10.8%、女性で8.9%(1)

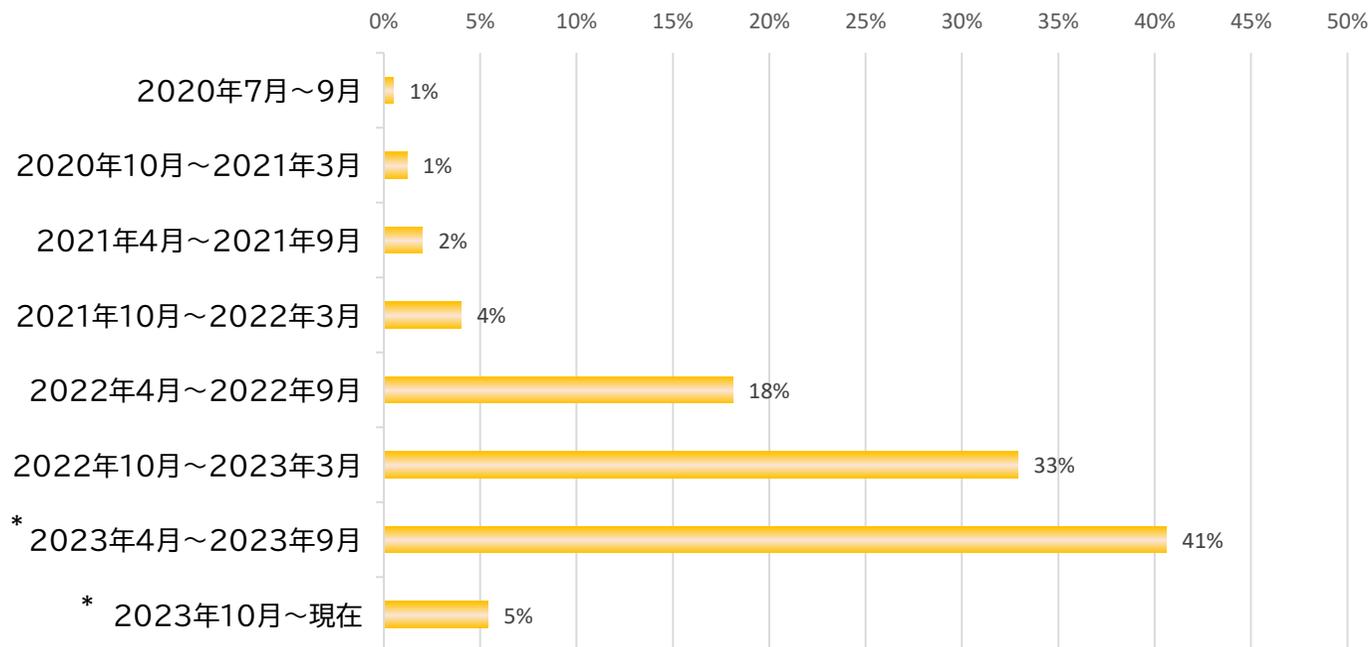
## 9. コロナ感染の有無

- コロナに罹患したと回答した人の割合は37%とだった。
- 罹患時期としては、2023年4月～9月が最多だった。

### コロナ感染の有無



### コロナの感染時期（複数回答）（回答数=3, 284）



※ 調査期間中のアンケート項目を追加したため、実際より過大・過小評価の可能性あり。

## 10. 健康影響（症状）（いわゆる“コロナ後遺症”の発症率・保有率）

- コロナ罹患後、他の疾患と説明がつかず、コロナ感染から3ヶ月たったあとも、少なくとも2ヵ月以上の持続の経験（発症率）のうち、**症状として「倦怠感（35%）」、「咳嗽（34%）」、「咽頭痛（31%）」が多かった。現在も持続する症状（保有率）は減少するものの、「倦怠感（4%）」、「咳嗽（5%）」、「喀痰排出（4%）」、「健忘（4%）」を認めた。**
- 罹患後症状を認めた人も、その後、経過とともに症状が消失することが明らかとなった。ただし、一定の割合で、罹患後症状が残存していた。
- （国の調査と単純比較はできないが、）本県では、国と同種類の症状の出現を認めたが、それぞれの症状の割合は低かった。

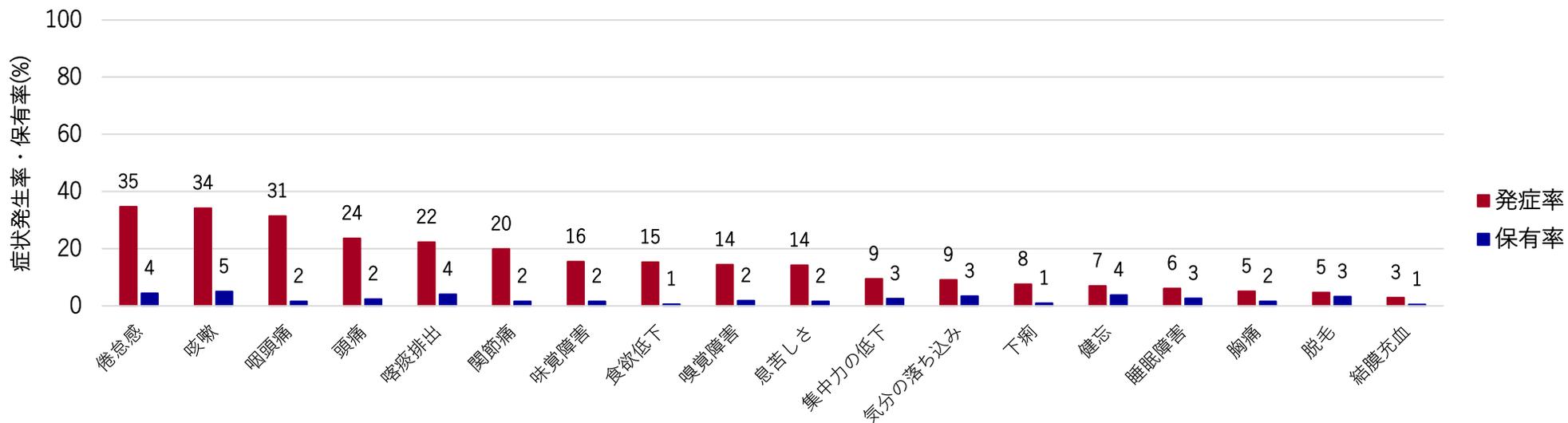
### “コロナ後遺症”の発症率・保有率

質問：コロナに罹患後、以下の症状について、

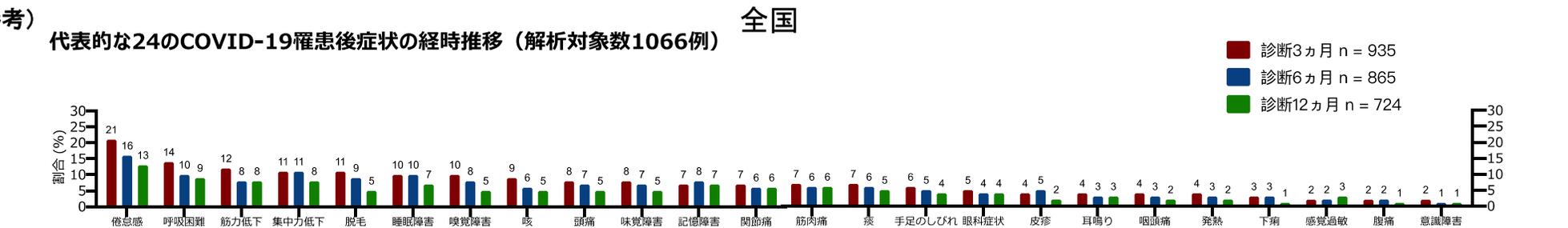
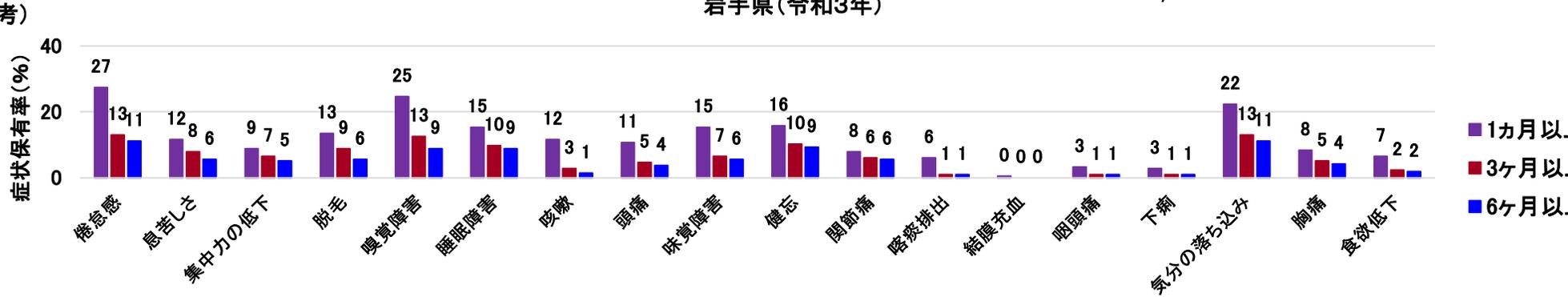
【経験】他の疾患と説明がつかず、コロナ感染から3ヶ月たったあとも、少なくとも2ヵ月以上持続しましたか？

【継続】その症状は、現在も継続していますか？

健康影響（症状）（回答数=3,284）



## 10. 健康影響（症状）（いわゆる“コロナ後遺症”の発症率・保有率）



## 11. 医療機関の受診

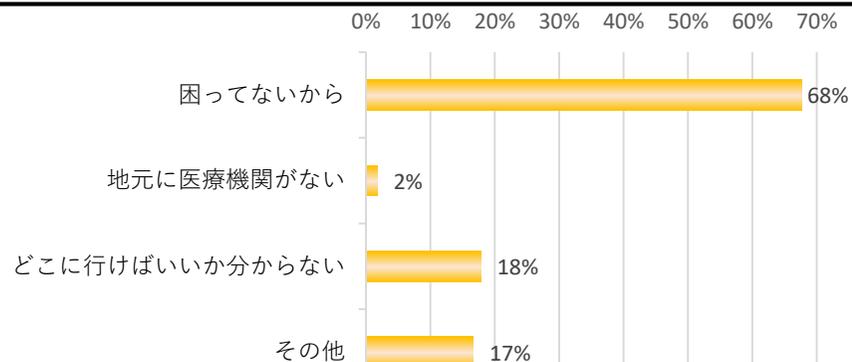
- 罹患後の症状を経験した人のうち、医療機関を受診しなかった人は、半数以上を占め、その理由として、「どこに行けばいいか分からない」が18%であった。
- 罹患後の症状が継続している人のうち、医療機関を受診しなかった人も半数以上を占め、その理由として「どこに行けばいいか分からない」が37%と上昇した。

### コロナ感染後の健康問題で医療機関の受診（コロナに罹患した3,284人を対象）

1個以上の罹患後症状の**経験**  
1,844人 (56.2%)

医療機関の受診なし  
996人 (54.0%)

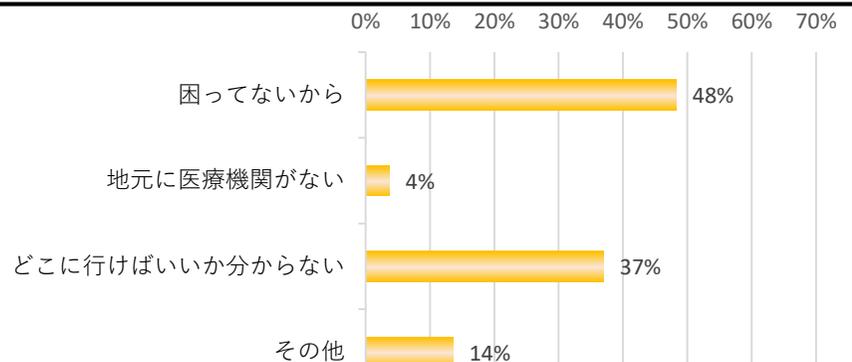
医療機関の受診あり  
848人 (46.0%)



1個以上の罹患後症状が**継続**  
594人 (18.1%)

医療機関の受診なし  
300人 (50.5%)

医療機関の受診あり  
294人 (42.5%)



## 12. コロナ感染後の健康問題による就労や就学への影響

□ 罹患した人の中で、何らかの影響があった（「就業時間など短縮した（6%）」、「休職や休学をした（12%）」、「仕事や学校をやめた（1%）」の合計）と回答した人の割合は19%となった。

コロナ感染後に健康問題で就労や就学への影響（コロナに罹患した3,284人を対象）

